

だい きやまとし たぶん かきょうせいかいぎ だい かいかいぎ ろく ようやく  
第4期大和市多文化共生会議 第16回会議録(要約)

にちじ ねん がつ か ど  
日時: 2017年10月14日(土)14:00~16:00

ばしよ やまと し やくしよぶんちようしゃ かいかいぎしつ  
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅつせき いん い の み さ と し ょ う じ くす る み こ た の い さ い な  
出席: 委員(猪野美里、東海林まりえ、楠瑠美子、田野井咲奈、ハゲイ パトリシア) /  
やま と し こくさい だんじょきょうどうさんか く か はしもと ふじかわ こうえきざいだんほうじんやま と し こくさい か  
大和市国際・男女共同参画課(橋本、藤川) / 公益財団法人大和市国際化  
きょうかい さかい たなか こにし いしかわ いじょう めい  
協会(酒井、田中、小西、石川) 以上 11名

けっせき いん いしま いとうもとみ しらとりせつろう せやまり  
欠席: 委員(石間フロルデリサ、伊藤素美、ウプレティ マトリカ、白鳥節郎、瀬谷麻里、  
ふ かわたかつね けいしやうやく  
府川貴恒)(敬称略)

ほうこくしょ あん  
1 報告書(案)について

ほうこくしょ あん しりょう そ じ む きょく せつめい ぜんかい かいぎ も よ こう  
報告書(案)について、資料に沿って事務局から説明した。前回の会議では、持ち寄り交  
りゆうかい かい あと はな あ ほんじつ ほうこくしょあん ないよう けん  
流会(ランチ会)の後の話し合いでまとまりがつかなかった。本日は報告書案の内容を検  
とう けい か ふ かえ げんざい た い ち かくにん いん いけん  
討し、これまでの経過を振り返りながら、現在の立ち位置を確認し、委員から意見をいた  
だきたい。

がいこくじん にほんじん ふそく がいこくじん かが かい かい  
○外国人と日本人のコミュニケーションが不足していることで、外国人の抱える課題が解  
けつ にかんが  
決できないままになっている。この認識についてどう考えるか。

か だい げんいん ついきゅう がいこくじん にほんじん  
○課題の原因を追究していくのはむずかしい。ただ、外国人と日本人のコミュニケーショ  
ん不足は原因の1つであるとは確実に言えると思う。

がいこくじん にほんじん ふそく かい う だ おお げんいん  
○外国人と日本人のコミュニケーション不足は課題を生み出す大きな原因となっている  
ことは間違いないが、これだけと断定できるものでもない。大きな要因の一つ、あるい  
は、この会議ではこのように考えた、といった表現でもいいのではないか。

がいこく こ しえん よさん こうし やと べんきょう し  
○外国につながる子どもへの支援については、予算があったら講師を雇って勉強を支  
えん しりょう めいき かいぎ ちよくせつ しえん  
援したりできたかもしれない。資料に明記してあることは、この会議では直接の支援が  
できなかつた中で、私たちにできることを考えた結果。行政に提言を出して即効性の  
なか わたし かんが けつ か ぎょうせい ていげん だ そっこうせい  
ある解決策を望まれた委員もいたはずで、解決策までを含めて事務局でまとめた内  
かいけつさく のぞ いん かいけつさく ふく じ む きょく ない  
容について委員の意見を聞いていきたい。

かいけつ しゅたい  
解決する主体

かいぎ がいこくじん にほんじん ふそく かい う だ おお  
○この会議として、外国人と日本人のコミュニケーション不足が課題を生み出す大きな  
よういん い おも し じんひとり てん かん いん けいはつ  
要因だと言っていると思う。ただし、市民一人ひとりという点に関して、委員が啓発する  
し じんひとり しんとう  
のはいいとしても、市民一人ひとりまで浸透させるのはたいへんなのではないか。そん

なに大きな課題に取り組んだのだろうか、という気もする。

- 当初は市民一人ひとりではなく、私たちが委員が補習クラスを実施してみればという話もしていた。しかし、行政や私たちのような特定の人取り組み続けるだけでは広がらないため、多くの人には課題が見えづらくなり、課題が解決しないままになってしまう。
- 市民一人ひとりが担うことができるまで、私たちが委員が啓発活動をするのが大事なのではないか。そうした提言を投げかけることも必要。
- 行政や市民への提言ではなく、委員がアクションを実行しようと当初の会議では話していたが、最終的に委員が実行すると言うよりも市民一人ひとりが実行すると考える方が報告にはふさわしいのではないだろうか。
- 単なる言い方の問題かもしれないが、会議の根幹に関わる場所でもある。委員が考えて、体験的な実施を行い、市民一人ひとりに投げかけ、ある程度の成果を上げたとき書いてあるのであれば理解できる。
- 市民一人ひとりのレベルまでのことをしてきた意識はないので、この2年間の取り組みの中でこのように変化した、このような方向性が見えてきた、となら言ってもいいのかもしれない。

#### 外国人コミュニティから出ていくには

- 資料では外国人コミュニティに生きていることが、原因の説明になっているが、外国人コミュニティについて調べたら課題が見えてきた、とした方がいいのではないかと調査対象を絞れば、はっきりとした課題が出てくる。また、外国人の抱える課題の原因は外国人と日本人のコミュニケーション不足だとつなげるのは漠然とした印象を受けてしまう。
- 外国人の抱える課題の原因は外国人が同国人コミュニティの中に生きていること、とすれば分かりやすいだろうか。
- 外国人はコミュニティに生きていないと思うのだが、例えば、フィリピンならコミュニティはあるだろうけれども、ケニアのコミュニティはないと思う。
- 外国人にとってのコミュニティがなければ、その代わりに日本人と交流しているわけでもなく、孤独に存在しているのではないかと。外国人と日本人がいるコミュニティがないので外国人は同国人のコミュニティで暮らすことになるのではないかと。
- 例えば、ペルーのコミュニティで何か企画すると、たくさんの外国人が集まる。逆に日本人側で外国人向けに企画したとしても集まる人数は少ない。それだけ外国人コミュ

ニティの中では日常的な交流がある。

- 外国人のコミュニティは組織化されているのか。
- 組織化はされていない。情報は口コミによって広まる。代表者もないし、毎回異なる人が情報を発信している。Facebook に投稿すると広がっていく。リーダーはいないが、コミュニティの中にいる人同士がつながっている状態。例えば、バーベキューやるよ、といった情報はすぐに広がる。
- 日本人の多くは外国人コミュニティがあることを知らないなので、知っておいた方がいいと思う。
- しかし、サッカーやバーベキューではなく、行政のお知らせだとしたら、その情報は広がっていかないのではないかと。日本人が外国人のコミュニティに入っていくことはむずかしい。
- おそらく、そのコミュニティの外に外国人を連れ出さないといけない。外国人としては出て行きにくいかもしれないが。
- なぜ、日本人は外国人コミュニティに入ることができないのだろうか。
- 私たち外国人はさっき初めて会った人でも昔からの知り合いだったかのように付き合うことができる。そういう文化は日本人が持つものとは違うのだと思う。日本人が外国人のコミュニティに入ったところで何もできないと思う。
- やはり、外国人にはコミュニティから出てきていただき、居心地のいい場所を用意しておくのがいいのだろうか。
- 理想の姿としては、外国人のコミュニティにもいるし、日本人のコミュニティにもいるという形なのだと思う。
- コミュニティから出てくる外国人が日本人と接する中で、日本人といろいろお話しできてうれしかった、勉強になった、といった気持ちになってくれることが大事。そうでないと、その外国人は二度と来てくれない。外国人は日本人とのコミュニケーションを交わす中で心地よさを感じたときに日本社会にも出てみようと考え始める。わたし自身もそうかもしれない。こうした会議に参加し、日本社会でも生きていく中で、自分の役割を見出して自分の居場所だと思えるようにならないといけない。
- 外国人が日本人、日本社会と接したときにある程度役に立てるといことがないと、コミュニティから出ていく理由がなくなってしまう。自分も役に立てることが理解できれば、日本語を勉強したり、他の外国人へ情報提供したりもするだろうと思う。外国人コミュニティから出たり、また戻ったりができるといい。
- 外国人の存在を多少なりとも認めてくれる場でないといけない。そのような日本人の

こころ だいじ しょくじ かい なん  
心がけが大事になってくる。ただのお食事会といったものでは何にもならない。

- 日本人が外国人とコミュニケーションを交わす中で外国人が抱える状況を理解する必要がある。日本人の気づきが求められる。
- コミュニケーションの場をつくるというだけでは分かりにくいし、成果にもなりにくい。しかし、どういうコミュニケーションであればいいのか。前回のランチ会からの気づきからもつながってくるという。こんな工夫をしてみるといいと言ってみるのか、工夫をして自分たちでやってみるのか。

### じちかい うい がわ いしき 自治会をはじめとする受け入れ側の意識

- 自治会の話をする、誰でもできる仕事があるのに外国人にはその仕事を割り当てず、次の人に役割を回してしまう場合がある。外国人も自分の役割があるとわかれば、そこに住んでいるという実感が得られると思う。ただ、自治会の人を動かすのはむずかしいことだと思った。
- 外国人に対してあれこれ教えることを手間だなど考えるのか、おもしろいなど感じるのか、日本人がどういう気持ちで接していくのか、むずかしいところがある。
- 日本人に対する接し方も同様で、受け入れ側の体質に問題がある。自分の先祖は弥生時代から住んでいることを引き合いにして、少しでも古くから住んでいる人が優位であることを主張する人が自治会にいる。
- 自治会は絶対に譲らないところがある。一緒に住んでいるのだから外国人も一緒にしてやればいいのかと思う。
- 知っている人同士だと楽し、決まっている以外のことをやるのがたいへん。
- 私の場合、小さな自治会だがいろいろな役割をお願いされるので外国人扱いはされていなく思っている。
- できる外国人が頑張るだけだと、周りの日本人はうまくできない外国人がいることに気がつきにくい。課題を見えにくくしてしまうので、うまく見せられるようなしくみにできるといい。また、できる人だけが頑張るのもたいへんで、そのことを周りの日本人はほとんど理解できない。
- 相談にのってくれる外国人のところには多くの外国人からの相談が寄せられるのが現実。日本人がもっと間に入ってサポートしなくてははいけない。
- 逆に日本人はどうやってサポートしたらいいのかわからない。
- 自治会では、玉こんにやくをつくることなど自分の役割があると思うと張り切る人がいる。日本人であっても、自分の存在感を認めてくれる場があることが大事なのだと思う。

- 玉こんづくりにしても2人で作業することになれば、自分の役割が薄れてしまうので気が進まない。プライドもあるし、1人で頑張ってもらえるとうれしくなる。
- そうした高齢の世代を対象にしてもなかなか変わっていかない。自治会は行政とパイプはあっても、行政の下部組織ではないので、何らかの指導を受ける立場でもない。
- 今、自治会の中心になっている人たちは戦後日本が貧しいときに頑張ってきた人たちだから、あまりグローバルとは言えない。日本人がグローバルな視野を持ち、外国人が自分の役割を持ちながら周りの人に存在感を認めてもらえるような環境をつくっていかないといけない。

### 日本人にとっての「役割」

- 役割の観点から考えると、日本人は役割が与えられているから、その場所においていのだと認識する。逆に、役割がなければその行事に参加していいものかどうかとも良くわからなくなってしまう。
- 外国人は特に役割を意識することはないのではないかと。例えば、結婚式に一人を招待すれば家族みんなが付いてくる。日本の文化とは違って招待していない人も参加する文化が少なくともラテン系にはある。
- 例えば、地域の外国人をサポートする役割が与えられたら、日本人も積極的に関わることになるのではないかと。役割がなければ日本人の感覚としてはなかなか外国人と関わりを持ちづらいつとある。委員ですらそう考えているのだとすると、一般の方はもっとそう思うのでは。
- 簡単に言えば、コミュニケーションできる場を設定することが大事なのだと思う。ただ、そうした場には地道だが口コミで自分の知っている人を呼び込む形でしか広がりが見込めないものなのかもしれない。
- 場をつくったとしても、人を呼び込むのはすごくたいへんだと思う。やりましょう、という段階ではなかなか参加までは結び付かない。国際化協会の料理教室にしても、外国人の参加者を集めるのはむずかしい。一方で日本人なら割とすぐに申し込みがある。

### 本日の振り返り

- 外国人と日本人のコミュニケーションが不足していることで「外国につながる子どもたちを取り巻く課題」や「外国人への情報提供に関する課題」がなかなか解決されないままになっている。この点を委員のみなさんと考えたい。
- 誰が課題を解決するのかについては、行政へ提言してお任せするより、委員自らが

行動する方を重視してきた。その上で、私たち委員が関わり続けるのか、ハードルは高いが市民一人ひとりへの広がりを目指していくのか。具体的には、私たち会議の委員が主体となって月に1回程度のランチ会なり、お茶会なりを継続していくのか、もしくは広く市民一人ひとりにやっていただけるような内容を報告書にまとめて啓発活動をしていくのか、どちらの方向にするか考えたい。

- また、外国人と日本人がコミュニケーションを交わして日本人が外国人の抱える課題を知ることで、この会議で検討してきた教育と情報提供に関する課題をどのように解決するのかについても考えたい。

### 解決につながるイメージ

- 「情報提供の課題」については、外国人と日本人がコミュニケーションをとることで解決に結びつくことがイメージできるが、「外国につながる子どもを取り巻く課題」についてはちょっと解決のイメージがむずかしい。ただし、解決までが遠くても言うておかないと会議で取り上げたことにはならないだろう。
- 日本人が外国につながる子どもの状況を知ることがなければ、この課題を解決しようとする力は働かなくなってしまう。課題解決までの道のりが遠くても、一人でも多くの日本人に知ってもらえない。それが外国人とのコミュニケーションを通して知ることにつながればいい。委員のみなさんが納得できるようなイメージがつかれるといい。
- 会議では、外国につながる子どもが学校の授業についていけないという話をしていたはずで、委員の中でもこの状況を何とかしたいという思いは強いと思う。
- また、教育に関する情報がなかなか伝わらないという話も出た。
- 私たち委員が行う補習クラスが役に立つかどうかという議論をしていたので、情報提供ではなく、学力の向上という観点から考えたと書きやすいのでは。
- 外国人と日本人がコミュニケーションすると、外国につながる子どもの学力が上るとつなげるにはその間にあるものをうまく見せられるようにしないといけない。
- コミュニケーションするといっても、本人が日本語を理解できなかつたら始まらない。どうやって学力を向上させるのか。
- 外国につながる子どもの学力が向上するためにはサポートする人が必要なわけだが、お金があれば家庭教師を付ければいいものの、お金がない場合はボランティアに頼るしかない。外国につながる子どもが学習に困っていることを知らなければボランティアしようとする人も出てこない。外国人と日本人がコミュニケーションすることで外国につながる子どもたちの状況を知る人が増え、ボランティアをする人が増えることで学力の

- こうじょう むす つ  
向上に結び付くのではないか。
- 学力の向上という課題が解決した状態のイメージがなかなかつきづらいのではないかと  
おも に ほんじん がいこくじん がいこく こ がくしゅう  
思う。日本人が外国人とコミュニケーションすることで、外国につながる子どもが学習  
めん こま し かいけつ む だい いっ ぽ はじ  
面で困っていることを知ることから解決に向けた第一歩が始まるのではないか。
- 教育の範囲は広いし、学力の向上はなかなかむずかしいものだと思っっている。学力だ  
けでなく、外国につながる子どもが学校生活で困らないようにすることも大事だと思っ  
がいこく こ がっこうせいかつ こま だい じ おも  
ている。また、社会人になったときに困らないようにさせることも大事。日本語が十分に分から  
ないまま成長してしまっ、日本の小中高校を出たのに、社会のルールが分からず、  
に ほんしゃかい い しゃかいじん たし てん かいけつ  
日本社会で生きづらくなっっている社会人がいることも確かで、その点を解決しないとい  
ねん ごと み す に ほんしゃかい せいかつ かんきょう  
けない。10年後を見据えて日本社会でも生活できる環境をつくっていかないと。
- 外国人であっても、日本人であっても、子どもが将来的なライフステージをある程度は  
がいこくじん に ほんじん こ しやうらいてき てい ども  
予測できるような教育も必要。
- しかし、外国人の子どもであることによっ、日本人と同じように就職できなかつたり、  
がいこくじん こ に ほんじん おな しゅうしょく  
機会が与えられていなかつたりすることに大人になるにつれて気付くことになる。その  
き かい あた おとな きづ  
点はなかなか学校の先生は分からないのではないだろうか。学校ではもちろん日本人  
てん がっこう せんせい わ がっこう に ほんじん  
も外国人も平等で公平で、同じように対応しているわけだが、社会ではそうなっってい  
がいこくじん びやうどう こうへい おな たいおう しゃかい  
ない。
- 本当は学習面で日本語のハンデを抱えているのに、外国人の子どもが友だちと仲良  
ほんとう がくしゅうめん に ほん ごと かか がいこくじん こ とも なか よ  
く日本語で話している姿を見て大丈夫だと錯覚してしまう先生もいる。  
に ほん ごと はな すがた み だいじょう ぶ さつかく せんせい
- 外国人の保護者の中には日本人に合わせた通称名をつける方もいる。日本人と同じ  
がいこくじん ほ ご しゃ なか に ほんじん あ つうしょうめい かた に ほんじん おな  
でなくても、外国人であることを隠さなくても、外国人のままで生きていく方が楽だとい  
がいこくじん がいこくじん かく がいこくじん い ほう らく  
うことを伝えることができるとい。外国人の子どもの中には苦しい思いを抱えて学校に  
つた がいこくじん こ なか くる おも かか がっこう  
通っている子もいる。分からないのに、分かったようなふりをしなくてはいけない。  
かよ こ わ わ
- 人権の観点からは、みんなちがってみんないい、と20年も前から言われてきた。  
じんけん かんてん ねん まえ い
- みんな横並びではなく、その子なりの課題を発見し、ライフステージに合わせた教育  
よこなら こ か だい はっけん あ きょういく  
ができるとい。
- 教育現場では国際教室や特別支援級に専門化し、それぞれが役割分担されている  
きょういくげん ば こくさいきょうしつ とくべつ し えんきゆう せんもん か やくわりぶんたん  
と思うので、外国につながる子どもの課題が多くの先生には見えづらくなっっているの  
おも がいこく こ か だい おお せんせい み  
ではないだろうか。
- 現場の先生の話も聞いてみたい。会議として調査したかもしれないが、委員に伝わっ  
げん ば せんせい はなし き かい ぎ ちょう さ い いん つた  
ているとは思えない。  
おも
- この会議としては、委員が小学校の放課後寺子屋教室にうかがって、寺子屋の担当  
かい ぎ い いん しょうがっこう ほう か ご たら こ や きょうしつ てら こ や たんどう

しゃ こくさいきょうしつ たんとうきょういん げんじょう がっこう たんにん せんせい  
者や国際教室の担当教員から現状をヒアリングした。学校によっては、担任の先生が  
ほう か ご てら こ や きょうしつ はい こ すがた み がっこう じょうきょう こと  
放課後の寺子屋教室に入り込んでいる姿も見られ、学校ごとに状況が異なってい  
た。

- 国際教室に通う子どもには寺子屋教室に行くように指導する学校もある。そこまでや  
っていない学校もあると思うし、そもそも国際教室がない学校もある。外国籍の児童  
が5人以上いないと国際教室が設置できない。国際級がある学校の方が良いとの判  
断で学区外から児童を受け入れるケースもある。

### じ かい かい ぎ かく にん じ こ う 次回会議の確認事項

- 【1】外国人の抱える課題のうち、(1)外国につながる子どもを取り巻く課題と(2)外国  
人への情報提供に関する課題について、これらの課題の原因は外国人と日本人の  
コミュニケーション不足にある、と結び付けていいか。
- 【2】会議の当初は委員が解決策を実行することを強調していたが、検討する中で、  
市民一人ひとりの働きも重要であることも理解できた。委員が実行していく、市民一  
人ひとりが実行していく、どちらの方向でまとめるか。
- 【3】外国人と日本人のつながりをつくるのが(1)外国につながる子どもを取り巻く課  
題と(2)外国人への情報提供に関する課題について、どのように解決できるか。解決  
していくイメージが思い描けるか。
- 以上の3点について次回の会議で確認したいので、委員のみなさんには回答を準備  
してきてほしい。

### 3 その他

じ かい がつ にち ど おな し やくしよぶんちようしゃ かい かい ぎ しつ かい ぎ おこな  
今回は11月11日(土)14:00～同じ市役所分庁舎2階会議室で会議を行う。

い じょう  
以上